



Licencia de conducir ~ チリの「運転免許」事情 ~

年の瀬もいよいよ押し迫り、今年もまさに暮れようとしている12月30日にチリの運転免許証を取得してきました。チリに赴任して2年が過ぎた今になって運転免許証を取得したことには理由があります。

実は、私が赴任した当初は、国際免許証の有効性に関して公式な法解釈は出ていなかったものの、「滞在査証等を取得した外国人であっても、携帯している国際運転免許証が有効であれば、チリ国内での運転には問題はない」との認識で、在チリ日本大使館もチリの運転免許証の取得を推奨していませんでした。しかしながら、本年7月頃から、警察が、「国際免許証は旅行者のためのものであるとして、在査証等を取得した者については無免許として取り締まる」という立場をとるようになったことで、チリの運転免許証の取得が望ましいという状況に変わってしまいました。

ただ、試験を受けるにあたり、スペイン語への不安から、どうやって勉強をしたら良いのか分からず、しばらく右往左往してしまいましたが、知り合いの在留邦人の方々から、攻略法などの多くの情報やアドバイスを頂き、なんとか年内に運転免許証を取得することが出来ました。

今回のように、海外では自分一人で解決できないことが多いせいか、より一層、人との繋がりの大切さを実感いたします。

兎にも角にも、私にとっては今年を締めくくる最後の戦いに勝利したことで、気分よく新年を迎えることが出来そうです。

来年も我々の活動だけではなく、チリでの生活や風習、日本との違いなども、皆様にお伝えしていければと思っています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

小田柿智之 LACRC 消化器病態学分野

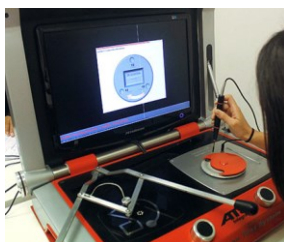


LACRC TMDU IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
JDプログラム	2
PRENECの進捗状況	4
活動報告	6



適性試験



学科試験



実技試験地図

ジョイント・ディグリー・プログラム

本年10月及び12月に、ジョイント・ディグリー・プログラム(以下、JDP)のチリ側の担当者を本学に招待し、今後のJDPのカリキュラム内容やプログラムの運営についての会議を行いました。12月の訪問時には、チリ大学と本学との合同教職員FD研修(教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称)も実施し、両国の医学教育や医療制度、最先端医療・研究を互いに理解しあう貴重な機会を得ることができました。本号では訪問時の様子をお伝えいたします。

10月のチリ大学教員による本学訪問

10月24日・25日にチリ大学のゴメス准教授及びCLCのラトーレ医師が、吉澤学長への表敬訪問、及びJDPに関する会議のため本学を訪問いたしました。会議では、JDPの充足について、消化器病態学分野長である渡邊教授及び肝臓病態制御学講座の朝比奈教授を含む関係教員等と意見交換を行いました。特に日本及びチリにおける胃腸病内科の状況について情報を共有し、学生の研究テーマと成り得る研究内容についての検討が行われました。将来的に、本プログラムから発展した、チリ大学及び本学教員による共同研究の可能性についても提案がありました。



左より北川教授、ラトーレ医師、吉澤学長、ゴメス准教授、田中理事

12月のチリ大学教員による本学訪問 及びJoint Workshop 2016 @TMDU

12月7日・8日にチリ大学のオライアン教授、ポニアチック教授、トレス准教授、カルデロン助教が本学を訪問し、FD研修「Joint Workshop 2016@TMDU」、JDP会議、及び医学部附属病院の見学を行いました。

FD研修は2日間にわたり、両大学の教員の能力向上と意識を共有するために実施され、JDPの専任教員や過去にチリへ留学した学生などを含め、計約65名が参加し活況を呈しました。今後JDPのますますの発展が期待されます。



研修会の様子



JDP会議の様子



上段左より安野准教授、植竹教授、荒木准教授、北川教授、朝比奈教授、岡田講師
下段左よりトレス准教授、オライアン教授、ポニアチック教授、カルデロン助教

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。現在、プンタ・アレナス、バルパライソ、サンティアゴの3都市において免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)を用いた検診プログラムが進行しております。

上記3都市に加えて、バルディビア、オソルノの2都市で、免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)の登録が新たに開始されました。また昨年の地震による影響でコキンボ市の進展に遅れがみられましたが、開始に向けた具体的な講習会が開催されました。

バルディビア市及びオソルノ市でPRENEC始動

11月、CLCのロペス医師が率いるPRENECメンバーがPRENECの新規拠点が開設されたバルディビア市及びオソルノ市を訪れました。

モール内に巨大な大腸の模型を設置し、模型内にて看護師が一般市民に対して大腸がんの説明を行うほか、栄養士による食事指導、大腸がんに関するビデオを上映し、啓発活動を行いました。

これに併せ、PRENECの免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)の登録を開始し、各都市での着実な前進がみられました。

今後、バルディビア市ではアベンダニョ医師、オソルノ市ではカセレス医師が中心となってプロジェクトを進めていきます。



左よりロペス医師、バルディビア病院ペラ院長、アベンダニョ医師



メディアの質問を受けるアルパレス下院議員



左よりロペス医師、カセレス医師

ロペス医師の本学訪問

PRENECプロジェクトに関する会議のために、チリ側の責任者であるロペス医師が、10月20日に本学に訪問いたしました。本学からは、田中理事、河野副理事、北川教授、岡田講師、伊藤助教、横浜市立みなと赤十字病院より熊谷病理部長が参加いたしました。ロペス医師から、PRENECの進捗状況等が説明され、プロジェクトを円滑に進めるための改善点や今後の方針に関して協議されました。



本学内における会議の様子



夕食会にて握手を交わす田中理事(中央左)とロペス医師(中央右)

PRENEC講習会

10月17日・18日の2日間にわたり、PRENEC開始予定であるコキンボ市サン・パブロ病院の看護師、助手、事務を対象としたPRENEC講習会がCLC及びサン・ボルハ病院内にて行われました。この講習会を通して、PRENECへの早急な参加が期待されます。



ハスミン看護師の説明を受ける講習参加者の様子



日智消化器病研究所前での記念撮影

LACRC活動報告

在チリ日本大使館による草の根案件フォローアップ会合

過去のニュースレターでもご紹介したように(15号参照)、在チリ日本大使館による草の根・人間の安全保障無償資金協力として、サン・ポルハ病院へ5本の内視鏡の提供、及び、施設の一部の改修が、平成26年に行われております。上記協力から2年経過した現在の状況を確認するための会合及び施設見学が、本年10月14日にサン・ポルハ病院で行われました。会合にはサン・ポルハ病院日智消化器病研究所よりエステラ所長、LACRCより小田柿助教、在チリ大使館より折原参事官、倉田書記官、草の根担当の藤田氏が参加しました。エステラ所長より、提供された内視鏡の現状や、検査件数の増加などの臨床面に与えた影響に関して説明が行われました。



左より小田柿助教、アラペナ医師、折原参事官、倉田書記官



左よりエステラ医師、藤田氏、小田柿助教

エクアドル第一回国際がん予防シンポジウム



テレビ会議システムを通して発表を行う小田柿助教

2012年に本学とエクアドル保健省との間で締結された覚書に基づき、エクアドル側からの要請に応じて適宜、学会や講習会等を通してLACRCは協力を行ってきております。

本年10月21日、エクアドルの大腸がん検診プロジェクトを推進するモンタルボ医師による依頼で、第一回エクアドル国際シンポジウムに、ビデオ会議システムを利用して小田柿助教が参加し、「大腸ESD」「胃ESD」に関する講演を行いました。

参加者は病理医、外科医、内視鏡医に加え、がん専門医、婦人科医と幅広い分野に及び、がん予防対策に関して多岐にわたる講演が行われました。

エクアドルにおけるがん対策フォーラム

11月30日・12月1日に、エクアドルセントラル大学が、首都キトで主催した同国のがん対策に関するフォーラムに、LACRCの小田柿助教が演者として招聘され、「本学のチリ及び他の南米諸国での活動」、「上部消化管の観察方法」に関する発表を行いました。フォーラムの翌日、モンタルボ医師の所属するパブロ・アルトゥーロ・スアレス病院を訪れ、モンタルボ医師よりエクアドルにおける大腸がん検診の進捗報告を受けました。



キト市内での夕食の様子



左より小田柿助教、バジェット医師、モンタルボ医師

内視鏡講習会

12月15日・16日、内視鏡講習会がCLC内にて開かれ、LACRCの小田柿助教が発表者として招かれました。大腸内視鏡検査に関する発表を行い、チリ国内外の医師からの高い関心が寄せられました。



参加者であるベネズエラ人医師(左)と記念撮影



発表の様子

サン・ボルハ病院 内視鏡治療センター開所式



左よりソーヘンドラ夫妻、小田柿助教、ナビレット医師

チリ保健省のプロジェクトの一環でサン・ボルハ病院の日智消化器病研究所内に内視鏡治療センターが新たに設置され、その開所式が10月28日に催されました。センター長であるナビレット医師の恩師であるソーヘンドラ医師がドイツより来智し、オープニングセレモニーに出席されました。

同院はサンティアゴのPRENECの拠点でもあり、今後も連携を深め、チリの内視鏡治療の向上に貢献できればと思います。



内視鏡治療センター入口のボード



内視鏡治療センターの様子

編集後記

先日、チリの南部でマグニチュード7.6と大きな地震が発生し、日本から多くのお見舞いのご連絡をいただきました。幸い、私どもの拠点の位置する首都サンティアゴはこの地震による影響はなく、震源となった南部でも死者、負傷者の報告なく最小限の被害でとどまりました。日本での熊本地震は記憶に新しいですが、地震多発国の両国、来年こそ大きな被害なく皆様が安心して過ごせますようお祈りしております。

今後も本Newsletterを通してLACRCの活動を報告してまいります。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No. 24, December 2016

[発行日] 2016年12月31日

[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp